

パブリックコメントの意見要旨(回答案たたき台)

募集期間:平成30年6月1日(金)～6月15日(金)

提出者数:19人(持参3人、FAX9人、メール6人、はがき1人)

意見件数:42件

区分・分類	意見要旨	回答案
見直し全体に係る ご意見とご要望	○資源ごみの収集頻度隔週化は、個別住宅ならば排出量が少ないので良いかもしれないが、集合住宅の場合、びん・缶ともに1週間でそれぞれが一杯になる。隔週化になると、置き場の確保や衛生的にも良くないと考えるので、隔週化は避けて頂きたい。	ごみの排出の原則的な考え方は、びん・缶などは軽く濯ぎ、当日の朝に排出するものであるとしています。また、ペットボトル等の資源物につきましては、スーパー等の小売店の店頭回収もご利用ください。
	○有害ごみを除き、びん・缶・ペットボトルの回収頻度を引き下げることには賛同することはできない。各家庭で長期間、ごみを保管することは、保管場所の確保と衛生面の問題を、市が各家庭に押し付ける形となる。隔週になった場合に回収を逸してしまうと、最長1か月間のごみを保管しなければならないため、マナーの悪い方が本来とは異なる場所に、ごみを放置するリスクを高めることになる。	今回の見直しでは、ペットボトル、ビン、缶の隔週化を考えており、これらの品目は排出する際には濯いで出すよう案内しております。生ごみや食品残渣のプラスチック製容器包装と比較して、衛生面の影響は少ないものと考えています。また、近隣他市では資源物収集は隔週が標準的です。
	○回収頻度を減らすのではなく、むしろ増やす方向で最適化を図っていくことが望ましい。コストが問題であるなら、必ずしも全ての市民にとって必要でない行政サービスの中で、優先順位が劣後するサービスを洗い出してそれらを削減すべきである。ごみの問題の中だけの部分最適ではなく、市全体の行政サービスの中での全体最適を図って欲しい。	本市では長期計画等に基づき、全体的な最適化を目指した予算配分を行っており、その中で各部署として行政効率化に努めています。本市のごみ収集頻度は近隣他市と比べ頻回であり、行政サービスの適正化やごみ処理費用削減といった観点から、比較的影響の少ない品目について隔週化を考えております。
	○有料化以来の画期的な方向転換だと思う。見直しの方向性として大いに賛成。「業務効率率と中長期的なコスト抑制」「資源ごみの一部の収集頻度を隔週化することで効率化と環境負荷低減」に向けて取り組むということですので進めて頂きたい。来年度4月からの実施に期待をする。	早期の実現に向けて検討を進めていきます。
	○中間とりまとめの見直しの方向性については、以前から市民の間で議論されてきた内容と大筋で一致するものであり、推進するべきと考える。この方針が実施に移された場合、一部では行政のサービス低下が懸念されているようですが、その程度は軽微なものであり、行政の今までのサービスが他の自治体と比較してみても、むしろ過剰であったといえるもの。市民からの税金を節約するためには、市民の協力が必要なのは言うまでもないこと。	ご指摘のとおりと考えます。
	○「ごみ収集の見直し」という一点では、概ね了解できるが、ごみ行政あるいは市の環境部の施策位置づけとしては疑問である。短期的な見直し、長期的な目的がはっきりしていない。減量・減容など目的をより明確化して、具体的に説明が欲しい。そのための、あくまでも手段(手順)として、地区割りや品目の再編、曜日の平準化があるが、それに対しても十分な説得力のある数値やわかりやすい明示が必要である。	今回の見直しは、一般廃棄物処理基本計画に掲げる「環境負荷の少ない省資源・省エネ型の都市」を実現するという長期的な構想のうち、短期的に実現できる部分について、見直しを行うものです。見直しの具体的な効果や数値については、最終報告書には委員会にて検討された資料を掲載したいと考えています。
	○資源ごみについては回収回数を減らしても、店頭回収や集団回収で救われる家庭が増えており、行政の回収頻度を減らすことで当座は多少の反応はあるにせよ、いずれはこの頻度で落ち着くものと確信している。多摩地域の他市の収集頻度を見ても妥当なところで、早期の実現を期待している。	ご指摘のとおりと考えます。

見直し全体に係るご意見とご要望	○一般的にこのような合理化は、早期のコスト削減にはつながらないと考えており、多少の年月はかかると思うが、いずれはコストダウンの方向に収れんしていくものと確信している。ごみ処理経費の節減へといずれ進むことに大きな期待をしている。	ご指摘のとおりと考えます。
	○中間報告の資料に、変更収集地域が示されておらず、市民の側の興味が薄い。 環境負荷削減効果について、車両台数だけでなく廃ガス等、幅広く効果についてふれる必要がある。	最終報告書には委員会で検討された環境負荷削減効果等についての資料も掲載したいと考えています。
	○主要目的は収集車両台数の削減による節税で、①市の施策改善及び事業者の協力による費用減効果はその寄与度により配分 ②市民の排出量削減による効果は全面的に市に還元を原則とし、切替当初週あたり123台が7.5(6%減・年間390台減?)による費用減効果は市・事業者折半程度が妥当ではないか?	行政収集の平準化と隔週化により、必要収集車両が減少することで、長期的なコスト抑制効果はありますが、短期的には人件費高騰等の影響から相殺される部分が大きいと考えています。
周知、広報に関するご意見とご要望	○市民への周知活動をどうするのか。困惑すると思うので、想定されるマイナス面への対応をしっかりとし、各方面に明示して欲しい。	市報やごみニュース等、多様な媒体による周知を複数回行っていききたいと考えています。
	○隔週の収集について行政サービスの低下、生活に不便をきたす等の反対意見が出てくると予測されるので、次のことを説明会、ごみニュース、市報等で周知徹底していくことが大事である。①市が行っているペットボトル等の収集・分別・保管にたくさんのエネルギーと費用がかかっていること。②多摩地域の3分の2に近い市町で、収集が月1回、月2回をすでに実施してごみ減量に努力をしている。③武蔵野市の水は地下水が80%であり、ミネラルが豊富でおいしく安心安全な飲み水が供給されている。④近年、海のプラスチック汚染が大きな問題になっている。海が更に汚染されていくと魚介類が食べられなくなる恐れが出てくるため、レジ袋やペットボトルの発生抑制が大事である。	①②④についてはご指摘のとおりと考え周知を行っていきます。③についてはご意見として受け止めます。
	○論理のズジははっきりとして欲しい。平準化という言葉が大変馴染みがなく意味がよくわからないため、文章や用語は中学生でわかるレベルのやさしい日本語で表現してほしい。そうしないと、ごみにいつも対面している方たちの支持と理解は得られないと思う。	文章や用語については正確性を損なわない範囲で、できるだけ平易な表現を使用したいと思います。
	○ペットボトル・その他プラ容器はがさばり、空気を運ぶのに多額の費用がかかっていることをPRL、マイボトル利用・バラ買いによる発生抑制を徹底させる。隔週収集による利便性低下の反対に対しては、多摩地域では既に実施の市も多く、市民・行政・事業者の協働により、節税効果が期待されることを各種メディアでPRすることを望む。	ご指摘のとおりと考え周知を行っていきます。
	○ごみカレンダーの作成は、大変だと思うがお願いしたい。	隔週化に際して必須と考えております。
今後求められるごみ処理へのご要望	○希望する集合住宅には ペットボトル用ネットを貸し出して欲しい。これからますますペットボトル・缶は増加するので、缶用のコンテナの貸出があると良い。	ご意見として受け止めます。
	○発生抑制のため、その他プラスチックを有料にしても良いと思う。	有料ごみ袋はその他プラスチック製容器包装にはあたらなため、有料ごみ袋がリサイクルの不適物として戻ってくることで可燃ごみの増に繋がる上、混入するとペール品質評価が低下するなど、中間処理施設での破袋・除去作業等に課題があります。この問題については今後の研究課題として考えています。
	○その他プラスチック製容器包装に対する対応を、国・都への意見等を明確に打ち出し、周辺自治体の足並みを揃える必要がある。	毎年、容器包装リサイクル法対象プラスチックの処理方法については、国に対して要望書を提出しています。

今後求められるごみ処理へのご要望	○今回の改善策はまだ始まりであり、ごみ減量のために取り組まなくてはいけない課題があることは、行政も市民も承知していること。今後も協力して課題に取り組むよう行政の丁寧な進め方に期待する。	今回の変更は、ごみ収集見直しの長期的構想の内、短期的に実現できる部分のみであり、今後も課題を解決するための施策を推進していきます。
	○将来的展望(長期)として、行政収集の広域化、連携の研究をあげられており、災害時のある程度の想定というものを考えると、広域化と連携は必須と思われる。	小規模自治体が将来的に単独処理を続けることはコスト面等からも非効率であることから、長期的な視点に立ち、連携の可能性を模索していきます。
	○古紙は多くの都市や市内集団回収では月2実施しているが、数量多く効果が大きいので検討していきたい。	降雨時に排出を控えるようアナウンスをしている関係上、天候状況によっては排出頻度が激減し、不適正排出が増加するおそれがあることから、今回は隔週化を見送りました。
	○これを機に「ペットボトル」と「その他プラ容器包装」の違いを徹底できればよいと思う。	ペットボトルは単一素材であり、リサイクル価値が高い反面、その他プラについてはリサイクルに様々な課題があり、処理方法については今後も研究を進めていきます。
	○ペットボトルの店頭回収を行政としても進めて欲しい。	顕彰制度の創出等、店頭回収についても推進していきます。
	○新たな提言として、今回の見直し対象から外れるその他プラスチック製容器包装については、様々な問題を抱えており、これを解決するためには、有料化を進めることで減容効果があると考え。今後の検討課題としていただきたい。	その他プラについては、どのような処理方法が環境負荷や費用の面で合理的であるかについて、今後も検討を進めていきたいと考えています。
	○瓶の蓋が金属の場合、燃やさないごみに出しているが、金属の日を月1回あるいは2か月に1回設けて頂く、鍋類などの金属類が資源に生まれ変わると思う。現在、燃やさないごみに出されている金属類が収集後分別されているのか。直接市民が分別して出した方が、ごみ減量の意識が高まるし、他の燃やさないごみと混ざらなくて作業が楽になると思う。	不燃ごみとして排出された金属類は、クリーンセンターにて選別回収され、リサイクルされています。
	○小型家電も金属と一緒に分別収集できればよいと思う。	ご意見として受け止めます。
	○ごみを徹底して減らすのであれば、さらに食器類、ガラス類の分別収集もあると助かる。	分別収集した場合、コストも含めたその後のリサイクル工程の効果を考える必要があります。現状、課題があると考えていますが、今後研究をしていきたいと考えます。
	○東大阪都市清掃施設組合が運営する第五工場では、余熱を使った発電の電力による収入が約9億円にのぼったと発表され、ごみ処理運営に収入を充てているとのこと。このような事もご検討されるとよいのではないか。	平成29年度に竣工した本市の新しいクリーンセンターでは、ごみ発電による電気と余熱を周辺公共施設で有効活用し、環境負荷削減及びエネルギーコストの削減に努めています。
○家庭ごみの保管ができず、どうしても回収が必要と認められた時は回収費個人負担で別途回収を行う補完措置を検討して欲しい。	行政収集がコストの掛かるものであることを市民の皆様へ提示するという観点では興味深いですが、料金の徴収など実現には課題があると考えます。	
その他のご要望	○積み残した店頭回収への取り組みについて、指針を出すべきではないか。集団回収についても、指針を出してほしい。	店頭回収については事業者の取組を評価する制度を構築します。集団回収は本文に記載のとおり、今回の行政収集の変更の後、見直しを行いたいと考えています。
	○集団回収の補助金は適正に活用されているのか？確認して見直すべきである。	中間とりまとめに記載したように、今後の見直しを考えています。
	○このとりまとめに基づく実施以外に、ごみ減量全体の「活動の場」を具体的に強化する必要がある。	啓発活動については今後も強化していきたいと考えています。
	○ペットボトルやレジ袋など、マイクロプラスチック問題になっている現状を考えると、使用しないのが一番だろうが、これだけ普及しているので無理だろう。せめて回収をしっかりとごみとして海に流れることがないようにしたい。	マイクロプラスチックの発生抑制に資する施策について、今後も研究を進めていきたいと考えています。
	○ごみ問題は人ごとではないので、ごみを減らし資源として再生していくことは大切なことで、そのための費用(税金)についても考慮しなくてはいけない。広く市民の意見を募りより良い方法を編み出していきたい。	今後も環境負荷やコスト面で合理的な収集体制の在り方を実現すべく、検討を進めていきます。

	<p>○ごみ収集は、市民にとって身近で重大な問題。にもかかわらず、ごみ収集の見直しについてのパブリックコメント募集を知る市民は非常に少ない。パブリックコメントを集める前に、なぜごみ収集の見直しかを、今までの検討の情報公開と、市民に公平で丁寧な説明をきちんとすべきだった。市報には内容はなく、スケジュールとホームページを見るようにと載っているだけだった。切実に影響がある、ホームページも見られない高齢者や市民には伝わらない。これでは、まともなパブリックコメントが集まらない。このような進め方で、このまま実施するば混乱は避けられない。</p>	<p>より良いパブリックコメント、周知の在り方については、今後も検討をする必要があると考えます。また、見直しの実施の際には、市報やごみニュース、HP等の様々な媒体を利用して、広く周知していくべきと考えています。</p>
	<p>○すでにパブリックコメントを募集してしまったので、今後は決めてから周知する前に、検討する段階で、以下のように市民と協働して進めてください。なぜ、ごみ収集・集団回収の見直しか、どのように見直す方向か、市報の特別号など紙面に解りやすく説明を掲載し、全戸配布してください。決定してからの周知ではなく、議論の経過を情報公開することは、混乱を避けるためにも、市民の協力をえるためにも、市民もごみ問題について考える段階として必要である。また、関係団体に丁寧に説明をし、意見を聞くべきである。</p>	<p>ご意見として受け止めます。</p>
<p>その他のご要望</p>	<p>○日常のごみ収集と集団回収について、それぞれ関係団体(集合住宅・団地の自治会や管理組合、町内会、福祉機関、資源物を収集する大型店舗などの事業者、集団回収についての関係団体、集団回収に参加する団体など)に、丁寧なヒアリングまたはアンケートを行い、これらの結果を踏まえて検討すること。</p>	<p>ご意見として受け止めます。</p>
	<p>○ごみ停留所を管理する集合住宅の自治会、町内会、集団回収に参加する団体などから、情報がないため心配する声を多く聞いている。</p>	<p>見直しの内容が確定し次第、様々な媒体を通じて周知広報をしていきたいと思ひます。</p>
	<p>○福祉関連の機関と連携して高齢者対策をすること。ふれあい収集の資格はないけれど分別に苦勞している高齢者が大勢います。この機会に福祉関係と連携して現状を把握し、対策を講じてください。</p>	<p>ふれあい収集の在り方については今後も検討していきたいと思ひます。</p>
	<p>○もう少し早めに丁寧に住民の声も聞いてから見直し検討してほしい。</p>	<p>ご意見として受け止めます。</p>
	<p>○高層住宅の事も少し考えてほしい。高層階に住んでいる方はわざわざ1階までごみ出しをしている。エレベーターの料金もかかっている。一戸建てと高層住宅との差がある。</p>	<p>ご意見として受け止めます。</p>
	<p>○高層住宅の集団になるとごみの出し方が大変乱れ、違法のごみで困っている(自治会で違法ごみ料が年間10万円くらいかかる)。住民が気を付けて何度も注意をしたり、鍵をつけても効果がない。自分の玄関前でしたら防げるのではないか。</p>	<p>高層住宅を戸別収集することは、置き場所の問題、エレベーター使用に伴う衛生面や占有時間の問題、収集作業量の問題など、様々な事情から難しいという結論に達しています。</p>